

## 空木

池松 孝子

空木は幹の内部が中空であることからの呼び名である。また、卯月に咲くことから卯の花とも呼ばれる。立夏を迎える頃、あちこちの山野、垣根に空木の白い花が目につく。それほど大きくならない、日当たりを好む、繰り返し刈り込みでも枯れない、そんな強さもあつてか、古くから垣根や畑地の境界用に使われていたという。

なぜか、ほととぎすが好んでやって来る。『万葉集』でも卯の花を詠んだ二十四首のほとんどが、ほととぎすとセットだ。『拾遺集』『金葉集』などにも多く詠まれた歴史のある植物だ。

卯の花といえば誰もがあの唱歌を思い浮かべる。一八九六年、佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲の唱歌「夏は来ぬ」だ。「卯の花の匂う垣根に、ほととぎす早も来鳴きて」さらに、ほととぎす、五月雨、早乙女、裳裾、橘、蛭など初夏を彩る季語、風物が織り込まれている。明治時代の作、古典文学者、万葉学者の作詞であることなどからか、最近の子供たちはこの歌を馴染みのない、聞き慣れない言葉が使われていると言ふとも聞く。あの「夏が来れば思い出す」で始まる江間章子作詞、中田喜直作曲の「夏の思い出」と並んで私達には初夏の代表歌だ。

番地まだ乙の字残る花卯月

安居 正浩

私は空木と聞くと木釘を思う。桐ダンスをはじめ、茶器、美術工芸品を収納する木箱など昔から様々な組み物に使われている。木釘、楊枝は空木の木で作る。

空木は材質として非常に粘り気が強く腐りにくい。穴をあけた桐材に空木で出来た木釘を刺し、余つて上に覗いた部分を鋸で切り落とす。表面が平らに仕上がるように鉋をかけて整える。こうして出来上がったものは桐材と同調して伸縮する。桐材と一体化する。安い金釘やねじでは考えられない出来栄になる。本体と一緒に塗装もできる。耐久性もすばらしい。修理しやすいことなど良いことづくめなのだ。

かなり前のこと、京都の桐箱工芸店を訪ねた時、実感したのはこうした先人の素晴らしい知恵だった。